

鯖江市の水道 (3)

進む給水設備の改善

上鯖江の上水道管理センターでは、各地の深井戸水源から送られてくる水を貯えて滅菌処理し、コントロールシステムを使い全自動で監視制御し、給水圧力を一定に保ちながら各家庭に給水しています。

配水管の整備が進み、老朽石綿管の取り替えはこの10年で92%に当たる113kmを完了しました。

平成15年度の最大稼働率は76%で十分な余裕を示しています。この数値は小さいほど配水能力に余裕があり、ちなみに武生市の98%、福井市の86%と比べて優れています。



福井豪雨災害で繰り広げられた給水活動

飲料用給水車が平成12年度に購入され、タンク容量は2千㍓で、事故や災害救援の応急給水を行っています。7月18日に起きた豪雨災害でも現地に出動して活躍しました。

これからは負担増加の傾向

県では将来的に2市4町の水資源を確保するために、今庄町の枳谷地区に県営の多目的ダムを造り、平成18年度中に一部給水を予定しています。

この給水が始まるとコスト増分が市民の負担となります。水道を低廉な料金で供給するには、県をはじめ受水市町村のさらに一層の経営努力が求められます。

家庭の節水、ムダを防ぐ

家庭での節水も大きな課題です。水を流しながら歯磨きし口をすすぐと30秒で6㍓、4人家族で年間で14800㍓、風呂おけ数十杯分が無駄になります。

水を汚さない工夫も必要です。仮に大きじ一杯の油を水に流すと、魚が住める水質に戻すには、26杯分の風呂おけの水が必要です。

水道はみんなを守る大切な財産です。